

## 神奈川区の地域防災活動の現状

### 平成24年度 六角橋地域ケアプラザ 地域づくりデビュー講座

《 いつか来る？ 大震災、  
自分と地域の守り方 》

#### 神奈川区の地域防災活動の現状

神奈川区 ニッ谷町会  
防災部長 伊 東 幸 保

### 【プログラム】

1. 自助・共助・公助とは ！（概略）
2. 横浜市の防災対策（公助）
3. 「神奈川区防災ネットワーク会議」の活動（共助）
4. ニッ谷町会・防災会の活動状況（共助）
5. 防災・減災活動案内

#### 横浜市は、現「防災計画」見直しに取り組む

1. 多くの人命が失われた東日本大震災を教訓として物的被害・経済的被害を最小化するため、横浜市の特性を踏まえた「減災に向けたまちづくり」を目指す。
2. 「自助」「共助」「公助」の概念に基づき、発災前と災害発生後に、市民1人ひとりは何をすべきか、地域は何をすべきか、行政は何をすべきか、各主体はどう連携し減災、災害対応に取り組むべきかを明確化する。

#### 【命を守る為、部屋の総点検。】



## 神奈川区ニッ谷町会 防災部長 伊東幸保

### 【自己紹介】

1. 「防災塾・だるま」 理事
2. 神奈川区防災ネットワーク会議 事務局
3. 神奈川区ニッ谷町会 防災部長  
（自主防災組織「ニッ谷町 防災会」を  
立ち上げ、現在活動中）

### 自助・共助・公助 とは ！

#### 【自助】

自らが自分・家族を守る為の備えや行動を「自助」と呼びこれが防災・減災の基本になります。

#### 【共助】

近隣の住民同士が、お互いの安全・安心のために協力し合う地域活動を「共助」と呼びます。

#### 【公助】

市・区を初め、国・県・警察といった公的機関が、日頃から防災・減災に向けて行う取組や発災時に行う救助活動等の災害対応を「公助」と呼びます。

### いざと言う時のために「安全確認」

① 自助とは。（地震だ、その時あなたは。）

② あなたの住いは安全ですか。

③ 家具転倒防止対策をしましょう。

④ 家庭の「防災会議」をやりましょう。

⑤ わが家の防災チェック。



### 首都圏に巨大地震は来るのだろうか！

#### 1. 関東大震災

(1)1923年(89年前)9月1日 11時58分

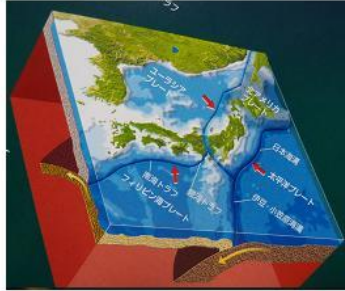
マグニチュード7.9 最大震度7、死者、行方不明 10万5千余名  
津波は相模湾沿岸、房総半島沿岸部で、高さ10m以上を記録。  
建物倒壊による圧死もあるが、強風のため火災による死傷者が多数。(200～400年周期と言われている。)

#### 2. マグニチュード7クラスの巨大地震は、何時来てもおかしくない。

日本そのものが地震国で、その上、関東の地下は、4枚のプレートが衝突する「地震の巣」と言われている。

## 4枚のプレートとはなに！

1. プレートは、超巨大都市を乗せた陸側の2枚のプレート（ユーラシアプレート、北アメリカプレート）の下にフィリピンプレートがもぐりこみ、さらにその下に、太平洋プレートがもぐりこむ三重構造になっている。



## 阪神淡路大震災の被災直後。



塞がれた道路



淡路島・北淡町の津波団

平成7年1月17日（18年前）

- ①阪神・淡路大震災の新聞記事を紹介。  
（平成7年1月17日）



## 平成20年1月の「阪神・淡路被災地訪問」の報告

「人と防災未来センター」で震災当時の様子をシネマで見ましたが、これは戦争だと感じました。揺れたしたとんに家具は倒れてくるは柱や梁がその上に崩れてくるはで何が起ったのか分からない内に下敷きになってしまう。その瞬間は何も出来ず、ただうずくまるだけ。地震が来る前に対応しておくことが、自分の命を守るには絶対必要だ。（「飛行機が落ちたと思った。」と言う人もいた。）最初のたった20秒の揺れで6434人の方が命を落とされた。外に出ると当り一面瓦礫の山。何処がどうなっているのか歩くのも困難な状況。この状況で一時も早く被災者を助けなければならぬ。防災組織を組み日頃訓練しておかないと右往左往する事になってしまう。救助工具を備え、組織だった行動がとれるよう、防災リーダーの養成と共に、訓練が大切だとつくづく思いました。

## 或る「悲惨な出来事」。（写真は東日本大震災の状況）

助けを求めて叫んでいる女の子がいるのに、誰も立ち止まらぬ、振り廻れない。なんて事を想像すると、とても辛くなる。実際に、助けられるかは状況にもよるが、少なくとも手を貸してやる気持ちだけは、忘れないようにしたい。



## 横浜市の地震被害想定は！

（平成24年10月）

### 1. 基本方針

- (1) 東日本大震災による被害状況を反映。
- (2) フィリピン海プレート上面の深さ（想定より浅い）考慮。
- (3) 地震動・液状化危険度も考慮。
- (4) 住宅・道路など都市環境の変化に対応。

横浜市防災会議の専門委員会として、「横浜市地震被害想定専門委員会」を設置した。

## 元禄型関東地震－1

- ・横浜市を襲う地震として、①元禄型関東地震 ②東京湾北部地震 ③南海トラフ巨大地震 ④慶長型地震 などがある。
- ・本市に最も大きな被害をもたらす地震として「元禄型関東地震」を取り上げ、被災状況を見ていく。

## 元禄型関東地震－2

1. 市内では、震度5～7で、広い範囲で震度6強以上となる。
2. 沿岸部の埋立地で液状化の可能性が高い。
3. 揺れで34,300棟が全壊、火災で77,700棟が全焼。
4. 3,260人の死者が予想され、津波浸水被害も半壊2,760棟が想定される。

### 神奈川区の被害想定(元禄型関東地震)

1. 建物倒壊による人的被害(12時発生)  
(死者146人は、中区、南区、西区につき4番目)
  2. 火災による人的被害(18時発生)  
(死者226人は、南区、中区につき3番目)
  3. 津波による人的被害(12時発生)  
(津波影響人口1,605人は、西区につき2番目)  
(死者 2人)
- \* 慶長型地震の場合は、津波影響人口は25,364人で、死者171人で、市内で一番多い。

### 横浜市民意識調査(平成23年度) (〇はいくつでも)

1. 今後、充実すべきだと思うサービスは？
  - ①地震などの災害対策(44.9%)
  - ②病院や救急医療など地域医療(34.5%)
  - ③高齢者福祉(31.9%)
  - ④防犯対策(30.6%)
  - ⑤高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり(25.2%)
  - ⑥以下30項目

### 市政への要望1位(平成元年～23年)

1. 平成 元年～ 4年 老人福祉対策
2. 平成 5年～14年 高齢者福祉対策
3. 平成15年～19年 防犯対策
4. 平成20年～22年 病院や救急医療など  
地域医療
5. 平成23年 地震などの災害対策

### 転倒防止、食料等準備以外の対策 (複数回答可)

1. 携帯ラジオ、懐中電灯準備(68.5%)
2. 消火器の準備(42.3%)
3. 避難場所の確認(38.8%)
4. 風呂水のため置き(35%)
5. 家族との連絡方法確認(29.1%)
6. 日用品の準備(22.7%)
7. 貴重品持ち出しの準備(22.3%)
8. 保険への加入、預貯金(21.3%)

### 地域防災拠点の認知度は？

1. 地域防災拠点を知っている？  
高齢者ほど認知度が高く、20～30才台は、2割台と低くなっている。
2. 区別に調べると、「知っている」は  
①金沢区(50%) ②磯子区(48.3%)  
③泉区(48.1%)・・・⑪神奈川区(39.8%)
3. 皆さんは？(ハザードマップ参照)

### 東日本大震災を見てみよう！

1. 平成23年 3月 11日  
午後 2時 46分
2. 死者 15,550人 負傷者5,688人  
行方不明5,344人 避難者47～55万人
3. 全壊家屋 107,779戸  
災害ボランティア 513,700人

### 横浜市の「津波からの避難に関するガイドライン」

1. 横浜市の津波に関するガイドラインは  
「慶長型地震」をモデルとして作られている。
2. 「慶長型地震」とは、1605年に発生した地震で、揺れ(推定震度4以下)はあまり大きくなくても、津波は千葉～九州に至る広範囲で、八丈島(10m)、高知(10～13m)が観測されている。

### 横浜市の予測される津波高

1. 予測される最大津波高 約4.0m  
満潮時に到達する海拔 約4.9m
2. 津波警報や避難勧告・指示が出されない場合でも、大きな地震の揺れを感じた時は避難行動をとる心構えが必要です。



### より早く、より高い場所への避難

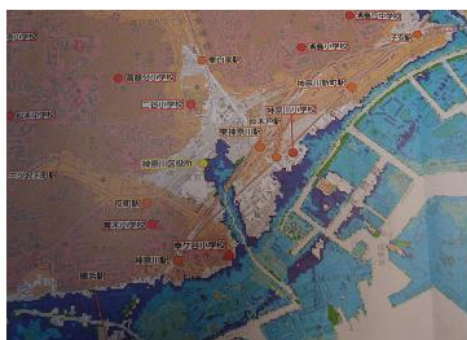
《避難する目安は ！》

1. 海拔5m以上の高台
2. 鉄筋コンクリート 鉄骨鉄筋コンクリート造りの頑丈な建物の3階以上を目安に避難して下さい。
3. 避難する時は、周囲に声を掛ける、手を引いて逃げる、その場の状況で出来る「助け合い」をしましょう。

### 横浜市の津波避難対策

1. 津波避難施設の指定  
避難者の受入れについて、一部の民間施設、市立学校、市営住宅等の公共施設を「津波避難施設」として指定しています。
2. 海拔表示の設置  
住民が生活圏において、海拔を認識し「より早く、より高い場所への避難」が出来るよう海拔表示を設置しています。

神奈川区の津波被災想定図



### 東日本大震災の動画紹介

1. 2011年3月11日 当日の被害状況
2. 1年後の被災地の状況

### 「神奈川区の防災力向上」を目指す活動

1. 区民の「防災活動実践者」が発起人で区役所に働きかけ、「防災ネットワーク会議」を提案した。
2. 「防災ネットワーク会議」を立ち上げる為作業部会を組織し、「ネットワーク設立」のために準備をしてきた。  
最初は、区民6名、区役所（総務課）、社協（事務局）で準備がスタートした。

### 「ネットワーク会議」の活動内容と目的を決める

1. 目的は、「神奈川区全体の防災力のレベルアップ」を目指す。
2. まず最初に、何から手をつけるか！  
22ヶ所の防災拠点の見直し、充実を図る。  
その為、拠点の委員長と共同で取組む事にした。

### 「地域防災拠点」の実情調査

1. 神奈川区に22ヶ所ある「地域防災拠点」に運営マニュアルが整備してあるか調査。
2. マニュアルが無いところ、マニュアルを十分活用していない拠点があることが判明。
3. マニュアル作成の為、活用している拠点をモデルにして、マニュアル作りを体験した。
4. 最終的には、地域にあったマニュアルを、拠点ごとに作るようになった。

### 拠点運営を訓練する為、図上訓練を実施

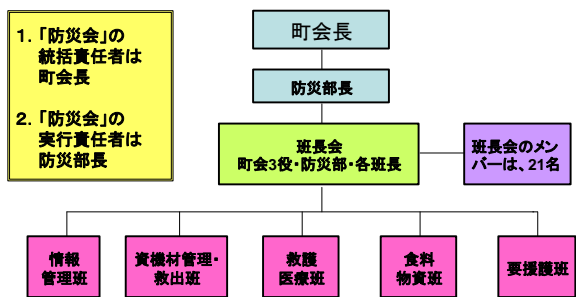
1. 防災拠点周辺の街歩きを行い、緊急事態発生の際の為、街の状況を確認しておく。
2. 防災拠点開設の手順を体験する為、図面上で訓練を行う。  
(拠点を解錠し、避難住民を受入れる。  
拠点建物の安全性を確認し、住民を学校内に収容する 等)

## ニッ谷町会の防災活動取り組み

1. 町会の役員全員を防災会のメンバーとして選び、4回の研修会を実施。  
防災意識が高まってきたところで、「行動できる体制づくり」に入る。
2. 防災会を5つの班に分け、班毎に研修・訓練を積み重ねて、「防災力アップ」を目指し、活動中です。

- ①情報管理班 ②資機材管理・救出班  
③救護医療班 ④食料物資班  
⑤要援護班

## 「自主防災組織(防災会)の組織図」



### 【情報管理班】

1. 町会全世帯の「家族構成調査」をおこなった。  
① 住民の安否確認に使う。
- ② 要援護者の救出にも使う。
2. 災害時の情報収集と住民への情報伝達。
3. 救出活動の指示・補助をおこなう。
4. 災害時の住民の避難状況を把握する。
5. 大型掲示板設置(情報公開)。

\* 構成は、防災部・総務部が中心。

家族構成調査は、個人情報の問題もあったが、事情を説明したら、皆さん快く応じてくれた。  
調査表配布した85%回収ができた。



### 【資機材管理・救出班】

1. 救出訓練  
(けが人を引っ張り出す訓練もやった。重い。)
2. 消火栓使用の放水訓練
3. 被災者救出に必要な資機材の補充
4. 備蓄資機材の管理及び使い方訓練

\* 構成は、防犯部・交通部・体育部の男性陣 中心。



### 【救護医療班】

\* けが人の応急手当を担当する。

1. 救急箱の管理と中身の使い方訓練
2. 人工呼吸・AEDの訓練
3. 三角巾の使い方訓練
4. 重傷者の搬送先  
医療機関のリストアップ

(人工呼吸は大勢の人に習得してもらいたい)

\* 構成は、家庭防災員 その他

1. けが人の搬送先が、問題た。
2. 自分達で手に入れない「けが人」は、近くの病院が防災拠点へ運ぶ。
3. それでも手に入れない患者は、救急病院に搬送する。行政をお願いしたい。マイカーは通行禁止になる確率高い。



### 【食料物資班】

\* 原則的には、食料・水の備蓄は、各世帯でやって貰うが、持ち出せなかった人のため、100人分の炊き出しができるよう備える。

1. 炊出し用の食料・水の備蓄、管理
2. 炊き出しの訓練
3. トイレ問題の検討
4. 支援物資の受け取り、配分

\* 構成は、婦人部(食事会)、数人の男性陣



### 【要援護班】

1. 「安心カード」を使い、平時から高齢者と 親交を図る
2. 要援護を申請してきた住民と親交を図る
3. 災害時は、要援護者を訪問し、安否確認する。被災者を見つけたら、救出班を出动させる。

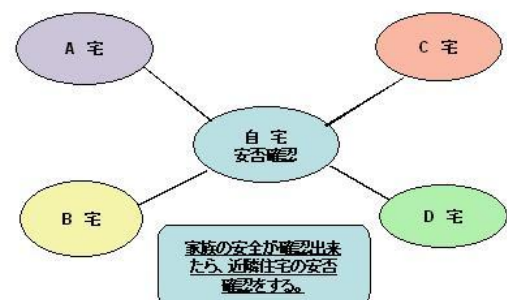
\* 構成は、なごみ会(老人会)、民生員、ふれあい訪問員、友愛活動員、その他協力者

1. 「安心カード」とは、自分の情報を書いておくカード。
2. 血液型、常備薬、行き付けの病院緊急連絡先 など。
3. 駆けつけた人が、人目で状況を把握できるように。

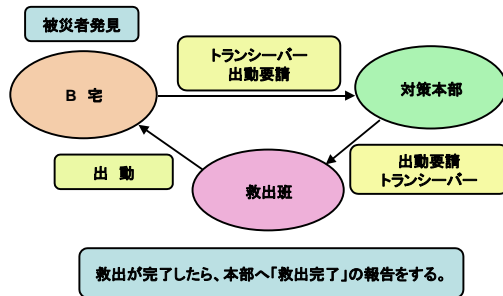


## 平成24年度 防災訓練

\* 被災直後、被災者捜索は、まず自宅周辺から始める。



\* 被災者を発見し、自分達だけでは救出不可の場合は、「救出班」出動を要請する。



## 防災活動をやることによるメリット！

1. 同じ目標に向かって進むことで、強い絆の「仲間」が出来る。
2. 他の地域の方達と話し、協力し合える関係が築ける。
3. 多くの人と意見を交わすことで、視野を広げていく事が出来る。
4. 活動を積み重ね、社会に貢献していると実感することが出来る。

## 【防災活動】とは！

1. 防災リーダーの育成
2. 行政（公助）に提言していく活動
3. 地域の防災力向上のための活動
4. 被災地支援のボランティア活動
5. 要援護者対策に取り組む
6. 防災拠点運営委員会に参加
7. 防災に関する情報提供

1. 自分に合うものを見つける。
2. 自分に出来る活動を選ぶ。

## 兵庫県からのボランティア



「阪神・淡路の時は、全国の皆さんにお世話になりました。」

今度は、そのお返しに頑張ります。」と言ったそうです。

兵庫からの支援部隊が、大々的に現地にのりこんだと聞いています。

胸の赤いラベルの下に、兵庫県の「兵」の字が見える。

溝の中のヘドリの除去は、人の力に頼るしかない。

1. 1人でも多くの方が、「防災活動」に参加して頂けるよう願っております。
2. 防災活動を始めるには、防災仲間を作ることが大切です。（情報収集、相談相手）
3. 新しいことに挑戦するときは、「すぐ行動に移すことが大切」だと思います。（「やる気がある」だけでは、やらないのと同じ）

\* 3項は私自身、これからも「強く、心がけていきたい」と思っています。

1. 組織は、動き出す迄が、大変。
2. 動き出したら、人間的なつながりを大切に。（協力者が、やる気を無くすような事がないように、配慮していく。これが大切です。）

長い間、ご清聴いただき  
有難うございました。

伊東幸保